

第5回 日本大学医学部 国際化プロジェクト講演会

# 歴史学からみた人間の睡眠

(座長) 日本大学医学部 精神医学分野  
教授 内山 真

A. Roger Ekirch, Ph.D.  
Virginia工科大学 歴史学科教授

日時 2009年10月30日 (金) 18:30-19:45  
会場 日本大学医学部リサーチセンター4階

私たちの睡眠は、本当にこれでいいのだろうか？  
私たちの生活から失われたのは、何だろうか？

答えを、歴史の中に求めてみたいと思います。



日が没すると人々は晩の眠りに就く。夜中になると一度目覚めて闇の中で1～2時間過ごした。

神秘的な闇の中で、先祖を思い、生と死を考え、夢について語り合い、祈る。夫婦は夜中の目覚めの間に睦み合う。子供は祖母や祖父の寝床を訪れ、授けられた神話や伝説の世界を信じた。

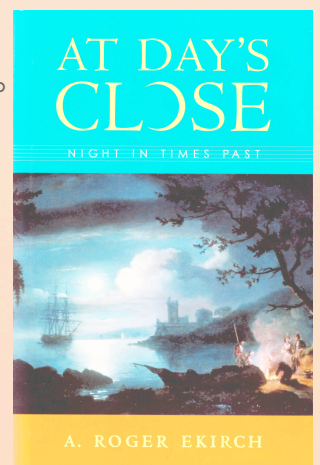
私たちは夜中の目覚めを忘れ、神秘的な闇との出会いによって保証されていた自然と人間の絆を顧みる機会を失った。

— AR. Ekirch, At Day's Close

普通の人々の夜、睡眠、闇の恐怖。これらを中世以前にさかのぼって調べ、世界的なベストセラーとなった「At Day's Close」。著者の歴史学者Ekirch教授が日本大学で講演をしてくれることになりました。

現代人の持つ睡眠の問題は、太古から現代につらなる人間生活の歴史の中で初めて客観的にとらえることができるのです。

Ekirch博士から、歴史学からみた睡眠について、そして人間について、お話を伺いたいと思います。  
皆様ふるってご参加下さい。



共催：日本大学医学部精神医学分野 医学生涯教育センター  
Tel: 03-3972-8111 (内線2431) Fax: 03-3974-2920